

町工場が「部品定数供給装置」

日産の技術使い製品化

川崎市の町工場が日産自動車(横浜市西区)の技術を使って、ポルトやナットなどを自動的に供給する装置を開発した。製造ラインの作業効率が向上することが見込まれ、開発製造したマイス(川崎市高津区)は「年間200台は販売したい」と意気込む。【高橋直純】

市が後押しして大企業も、必要数のポルトを業の技術を中小企業に箱から取る作業には手マッチングする取り組みを取るといふ。

みの成果。日産が自社で内製化していた技術を提供した。小型ポルトに関する機械が市販されているが、直径8〜12ミリの受注があつてから生産を開始する「日産生産方式」は、一つの製造ラインで複数の車種を組み立てる。車種ごとに部品が異なるため、熟練した作業員で

たが、直径8〜12ミリの大型にはなく、日産は独自に考案し、特許を取得した上で自社工場用に製造していた。社内50台ほどを使い、生産効率は向上している

川崎市後押し「年間200台販売したい」

が、さらなる利用拡大も求められたほうが良いに向け、外部に製造しと判断したという。



自社開発した「部品定数供給装置」を紹介するマイスの酒井高雄社長(川崎市役所で)

一方のマイス社は、酒井高雄社長も含めて3人の中小企業。これまで受注製造がメインで、自社開発は夢だった。市の知的財産コーナーディネーターの仲介で、昨年7月に日産と顔合わせをし、今年1月に製品が完成した。酒井社長は「操作性の向上、小型化、低コスト化を実現できた」と話している。

日産は同じ特許を堺市の企業にも提供している。担当者はマイス社製品について「信頼できる製品で、有力なベンダー(供給元)だ」と思うと話している。マイス社は4月から1台28万円(税別)で一般販売する予定。